

農地集約 桑畑に

安中市と 法人、地権者 円滑な営農へ協定

安中市は29日、農業法人「ワイビーファーム」(藤岡市中粟須、石井功一社長)と安中市下足名田地区振興協議会(須藤英利代表)が農地の賃借借契約をまとめたことを受け、円滑な営農が行われるよう両者と地域振興の連携協定を締結した。

力したい」と表明。石井社長は「桑の維持や

管理、収穫には人手が必要。障害者雇用など農福連携にもつなげた」と話した。

県農業公社によると、農家と企業のマッチングは遊休農地対策や大規模営農化などが目的で、県内は平野部

の多い東毛が中心。浅野達朗事務局長は「安中市のような中山間地は交通の便や複数の地権者をまとめる難しさがあり、利用に結び付いたことは画期的だ」と評価した。



協定書を持つ(左から)須藤代表、茂木市長、石井社長

県農業公社と農地中間管理機構が仲介し、昨年12月に10年間の契約が成立した。協議会の15人が同市松井田町人見に所有する農地約3畝を集約、ワイビーファームが桑畑として再活用する。同社は桑の葉を使った健康食品などを販売している。

市役所で開かれた締結式で、茂木英子市長は「農地保全や地域の雇用確保、6次産業化など今後のモデルケースとなる。しっかりと協